

# 孀恋村 で初

## 第1回孀恋高原

### インタープリター会も役員で参加

キャベツマラソン

孀恋村が出場者を全国公募しての初めてのマラソン大会となる第1回「孀恋高原キャベツマラソン」が6月1日、JA中原フレッシュセンターをメイン会場に開催されました。前日まで降りしきった冷たい雨もスッキリと上がり、清々しい絶好の天気にも恵まれて、午前10時過ぎ、



「浅間高原の風とともに走ろう！」とのスローガンのもとスタート。パノラマライン南ルートに設けられたハーフマラソンコース、10<sup>キ</sup>コース、5<sup>キ</sup>コース、2<sup>キ</sup>コースで、それぞれ年配者から、こどもまでが参加し、健脚を競い合いました。

これには、大会実行委員会からの要請を受けて、孀恋インタープリター会も住田節子会長、小林勝三副会長、大島義夫副会長と会員ら11人がコースに設けられた給水所のスタッフとしてボランティア参加、地元中学生とともに2000人を超える参加選手に対して給水のサービスを行いました。壮大な浅間山を眼前にした一面キャベツ畑という360度パノラマコースに、走る人も大満足の様子。給水の役員に対しても、「ごくろうさん」「おいしい水ネ！」の声を掛けていました。また、ゲストランナーとして選手に混じって走る千葉真子さんから「ありがとう」のねぎらいの声。



こうして地域貢献の活動が無事故で終了することが出来、インタープリター会のメンバーも、互いに「本当にごくろうさん」「きょうは良かったネ」と清々しい笑顔で激励を交わしあっていました。なお、一般参加者としてインタープリター会からも数人が快走、気持ちの良い汗を流していました。